

船橋市立行田東小学校
小嶋 順子

同時進行型



実践テーマ

児童が書いたコラムを大うつしにして、友達の書いたコラムについて話し合う。

授業の進め方、デジタルテレビ等活用の仕方

- 導入：デジタル放送番組を視聴し、いじめについての認識を深める。（興味・関心を高める）
 展開：自分の体験やデジタル放送番組を見て得た情報をもとに「いじめ」についてのコラムを書く。書いたコラムを電子黒板とプロジェクターを活用して拡大してうつし、線を引いたり書き込んだりする。（コラムの内容について話し合う）
 まとめ：コラムを個人新聞に書き込む。

本時の展開

主な学習活動		
学習の流れ	主な学習活動	使用する教材 (デジタルコンテンツ等)
導入	・デジタル放送番組「もしも明日が・・・」（動画）を視聴することで、いじめられている人の気持ちや家族の思いを知り、いじめについての認識を深める。	●NHKデジタル放送番組「もしも明日が・・・」（16分）
展開	・今までの体験やデジタル放送番組を見て考えたことをもとにコラムを書く。 ・自分が伝えたいことを確認してから、書いたコラムを電子黒板と実物投影機で大うつしにし（実物）、書いた文字や書き込んだ文字を全員に見えるようにする。 ・大うつしにしたコラムに、友だちからの意見などを書き込み、伝えたいことが書かれているコラムかどうか意見交換をする。	●実物
まとめ	・次時は、本時に意見交換できなかったコラムについて、本時と同じようにグループごとに話し合うようにする ・友だちの意見を参考に、個人新聞に書いたコラムを書き込む。	



電子黒板機能を活用して画面上で推敲する（友達の意見や線は、赤の色で書き込む）

児童の反応・効果

- ・デジタル放送番組を見たことで、いじめは、当事者だけの問題でなく、家族や友だちの気持ちについても考えることができた。
- ・電子黒板に、友だちと意見を書き込んだことで、より高度なコラムを書くことができた。

活用のポイント

- ・鮮明に映し出されるデジタル放送番組は、児童の集中力を高めた。また、いじめについてのコラムを書く意欲を喚起することができた。電子黒板は、線や書き込んだ文字が保存でき、見返したり振り返ったりするときに効果的である。